

| |
|---|
| <p>課題名</p> <p>経頭蓋直流電気刺激療法によるミオクローヌスの治療</p> |
| <p>(1) 新規に導入される医療</p> <p>(2) ○保険診療の対象とならない医療</p> <p>(3) 患者に不利となる可能性のある医療</p> <p>(4) その他</p> |
| <p>研究責任者 旭 雄士</p> |
| <p>概要</p> <p>今年の 1 月に意識障害に対する経頭蓋直流電気刺激療法 (transcranial direct current stimulation; tDCS) について当院倫理委員会で承認された。意識障害以外にもパーキンソン病など様々な疾患に対する tDCS の試みが報告されている。今回、視床凝固術や内服治療でも改善が得られなかった難治性のミオクローヌスを呈する良性成人型家族性ミオクローヌスてんかんの患者に対して、試験的に tDCS を行ってみたところ、刺激直後から約 1 週間の持続的なミオクローヌスの改善効果が得られた。刺激は前頭部を陽極にし、頭部外の部位を陰極にして刺激がされた。このような報告は今までなく、治療のないミオクローヌスに対する画期的な治療法となる可能性がある。ポータブルの tDCS 装置も市販されており、定期的な通院をしなくても持続的なミオクローヌスの改善が得られることも考えられる。今後も機能外科外来にミオクローヌス患者が紹介となる可能性もあり、当院倫理委員会へ申請をした。尚、結果については、定位・機能神経外科学会や国際学会、論文投稿を予定している。</p> |